

宮城県障害児教育将来構想②は、障害のある児童生徒も地域の通常学級に通う「共に学ぶ教育」を掲げている。統合教育の実現を目指す県内の民間団体「共育を考える会」の飯島茂事務局長と、重度障害児・者の家族らでつくる「宮城県重症心身障害児(者)を守る会」の秋元俊通会長に、それぞれの立場から将来構想の評価や課題を語ってもらった。

宮城 変わる障害児教育

第1部 将来構想の波紋

将来構想が実現するに比べ、通学時間が短く、障害児の存在が地域で認知される。障害があっても初めから同じ学校にいれば、子どもたちは互いに慣れる。養護学校

希望に沿う選択肢を

は存続させるべきだ。学校にこだわらなくても、地域の理解は深められる。地元の子ども会でも、活動することも一つの方法。本籍を養護学校に置き、週何日は通常学級に通う形もある。親の希望を尊重するために、さまざまな選択肢を用意してほしい。



宮城県重症心身障害児(者)を守る会会長
秋元 俊通氏

④ 完 評価と課題

の判断ではなく、県教委レベルで支援態勢を整える必要がある。「障害児が通うことで周りの子どもが優しくなる」という声も聞かぬが、違和感を覚える。障害児はみんなの先生なのか。「その子のため」を第一に考えたい。心配もある。重度の知的障害児は勉強について

る必要がある。「障害児が通うことで周りの子どもが優しくなる」という声も聞かぬが、違和感を覚える。障害児はみんなの先生なのか。「その子のため」を第一に考えたい。心配もある。重度の知的障害児は勉強について

宮城県障害児教育将来構想 すべて育機関の支援機能の整備と理解促進、取り組む。具体的には教員の複数配置、障害に合った指導をする「学習支援室」の設置、盲・ろう・養護学校の地域支援機能の強化などを盛り込んだ。実施については本人と保護者の希望を尊重する。

教 育